

えひめいきもの応援キッズレポート (提出用)

名前 なまえ 青木 康太郎

作成日 さくせいび 平成28年2月18日

1. 選んだ生きもの えらんだいきものなまえ の名前

※写真やスケッチがある場合は、このレポートと一緒に提出してください。

種名 しゅめい ニホンカワウソ

学名 がくめい Lutra lutra

愛媛県レッドデータブックの えひめけん カテゴリー 絶滅危惧1A

2. 選んだ理由 えらんだりゆう (調べようと思ったきっかけ)

県獣だから。

えひめにさいごまでいたから。

かわいいから。



3. 選んだ生きもの えらんだいきもの の特徴

予想していたこと よそう

ほんほくしにくい。



調べてみて分かったこと

ニホンカワウソはユーラシアカワウソに近い。しっぽまでいけると1m。体重4.2~11.5kg。立つと人間の子どもみたくに見える。江戸時代は日本中の川辺にいた。カッパのモデルともいわれる。淡水と夕場が必要。エビカが好き。群れない。神けいっ。人が水をよごすなどは、生活の場をうばい、内陸の川から海岸へ移動した。人のせいで生活をかえ、できようできなかった!?

4. 各パートナーズ施設へ行って、どうやって調べたのか

愛媛県生物多様性センター

愛媛県総合科学博物館 バックヤードのはくせいを見た。展示も見た。

愛媛県立とべ動物園 はくせいや骨格標本を見て話を聞いた。コリヤをみた。

面河山岳博物館

虹の森公園 おさかな館 コリヤカワウソをかんについて質問した。

5. 問いたり、調べたりした内容、分かったこと (結果)

(例1) 生きものがある環境 (例2) 数が少なくなった理由

○生態

胴長、脚短、流線形の体

耐水性の毛皮、水かきをもつ

体をくねらせて泳ぐ

皮下しぼうがうすく、たくさん食べる

○生きものがある環境

- ・エサをとる所 (えびやカニがいるおせ)
- ・ヌク場 (泥あひをして寄生虫や汚れをおとす)
- ・ねるころ
- ・の水場 海にはキライ! 淡水が必要

この条件がそろっているところ。

○減少の理由

- ・毛皮が軍服の素材に使われた。
- ・かぼちうが藁にはおると乱かくされた。
- ・人の生活の変化で「すみか」がへった。川→海岸へ移動
- ・土車にぶつかるとれず、おみにかかると事故で命をおとしたり。
- ・工事の音と人がたくさんいるので「着床」しにくい子をおとしたり。

6. 今後、どんな生きものについて学んでみたいか

- ・ ニホンイシガメの現状も学習したけれど、自然界で見る(畑で)カメは アマガメ、エガメとよばれているやつしか知らないのて、それとのちがいがわからないので調べてみたい。

感想

カワウソ村はいい考えだと思ったのに、うまくいかないと思った。

人が汚さない、カワウソにとってすみやすい場所をあげて、人がかかわらないエリアを作って、安心して住んでもらう技術と情報が540年にあたらんとニホンカワウソの生存ができたかもむれないと思った。

7. その他、参考にしたもの

- ・ スマイルポイントのかわうそ特集
- ・ のいち動物園で、3種類のカワウソをかんさつした。
(ユラシアツツメ、ゴム) 高知のニホンカワウソのこを学習した。
- ・ かつら浜水族館で ヌツメカワウソもかんさつした。
- ・ 夜の学校で ニホンカワウソの話をおもいた。

補足レポートとして、新聞 No. 7, 11, 12, 14 (ニホンカワウソ)
No. 9 (ニホンイシガメ)

40年前は生きていた

カニ
フホ
ウン
ソ
新聞

えん
ん
だ
った



えひめ県生きもの応援えんキッズの学習会が8月1日、総合科学博物館であり、約10名が参加しました。絶めつが心配される水スギナやデンジソウを観望したり、絶めつしたとされるニホンカワウソの話を聞いたりして学習しました。



バックヤードにならぶ標本ニホンカワウソだけで、横二列たて三段のたなのスペースを三面とっていました。カワに40体ある。

人に生息域をうばわれる

ニホンカワウソは耳が小さく目、鼻と一直線の。少し水から出ただけで周囲が見え、長い毛が水をばいく。標本は一番古い昭和29年のものだが内陸部へ大洲市ひい川中流)であとは全部海岸部から。人が水を汚しえさ場かへった。たくさんいたが毛皮を軍服にするため殺された。右ともとは川の生き物。それが海に住むようになる。でも海

●は標本になつたカワウソの産地

他に瀬戸内海体の魚島村でろ海

えひめ県西部に多い

でえさをとるのはへた。昭和30〜40年、えさをとりに来て魚のあみで命をおとした標本がほとんど。昭和50年の宇和島おき丸島の標本が最後。50年たつと絶めつとされるそうだが、昭和30年〜40年にカワウソのことを考える人はいなかっただのかな。

2015年9月5日

えひめ産 300匹 外国へ!!!



ミドリカメの幼体。小さくてきれいな緑色。今はかわいいけれど、3年で黒くなり10cmに。成体は30cmになり。じゅみょうは40年。

えひめ県生モもの応えんキッズの学習会が9月5日、とべ動物園であり、約15名が参加しました。ニホンイシガメ、クサガメ、ミドリカメへミニシッピアカミミガメを観さつし、日本のカメの現いエうと問題を学羽互しました。

ニホンイシガメ
キん急
事たいい
新聞

青木 康太郎

輸入が続く ミドリガメ

50年前には日本に

いなかったミドリガメですがペットブームで国内に広がりました。しかし大きくなるのでかっていて捨てる人が多く野外で増え、今では60%がミドリカメ、イシガメはすみかをうばわれ3%だけです。イシガメの絶めつか心配されるのに、今年も年に100万匹のミドリガメがアメリカから来ているそうです。やめてほしいです。

ニホンイシガメのたまごは平均6こ。生まれた時は10子でへびやウシガエルに食べられます。増やすのは大変そうなのに、去年えひめ産のイシガメが300匹外国に売られたと聞きひどいと思いました。





10月12日、高知県立のいち動物公園へ行って、ニホンカワウソやアサギマダラについて調べました。4パンジーとかワウソの食事を見学して、自然に近いようやり方が工夫されていると感じました。

①自然に近づける工夫

のいち動物公園 7つの発見 新聞

青木 康太郎

▲棒を使うチパンジー

穴に棒をさしこみ、2本使って食べ物を穴のところまで動かして落とします。果物(りんご、みかん)、ピーナツ、野菜(ニンジン、ピーマン)の順にたくなる。おやつタイム。

ツメナシカワウソ
前足にツメしかか
がないゆびが
よく動く。



②ニホンカワウソ う消えたのは1920年代

かつては日本各地の水辺に生息。資料によると乱かくにより1920年代に減少、1965-1957に本州から消え、特別天然記念物に。1970須崎の個体が最後。

③園内でアサギマダラ ふきまーキングダ調査

春に北上、秋に南下。南方系のチョウだが温暖化で北へ分布を拡大。寿命は2-3ヶ月。本州から来てここを中継し鹿見島で再ホカリスたれた例あり。(700ギギ調査)

④リスの小道

ニホンリスが走り回ります。



⑤那珂島にソライライ

バイオシエム(702枚のパンネルで年500kwの発電)

⑥科学館で動物しス

ヒード比べ

⑦子どものは無料

2015年 11月 1日

ニホンカワウソ新聞



多くはひん死状態で発見

江戸時代は日本中にいてカッパのモデルともいわれ、人と近しい動物だった。

昭和の初めに絶やつしたと言われているが、29年びじ川にいたとわかり、保護

されとべ動物園でふりく44まで456頭飼育されていた。生息が四国南西部に百



頭とされた。39年に天然記念物に、40年に国の特別天然記念物になった。40年までに19頭を保護、22頭の死体も発見。もともと川辺の生き物で、淡水と毛をかかす。又夕場が必要。泳いでエサを取るのには苦手。内部から消えほんだが海岸のあみにかかると見つかると50年の九島での保護が最後。

カワウソの悲劇

① 明治に洋服と毛皮を使う文化が入り、

口実のよい毛皮目的で乱かくされた。

② 30年代国道が整備された。56号線は

あちこちから工事さ

れ、逃げ場を失った。

③ 南予はハマキの養殖が盛んで、魚を食

べに来たカワウソが

あみにかままり人に

かみつきあぶないの

で殺された。

音と人におびやかさ
れ安んできず、着
床ちえんがおニリ子
どもを残せなかった。

⑤ ひん死で発見され
当時の輸送手段では
助からなかった。

⑥ 41年にかわうそ
村を作ったが、群れ
が逃げた。飼育の情
報や技術がなかった。

子供とまちがえら
れるくらい近くにい
て人なつ、こかつた
生き物だったのん、
養殖の魚を食べる悪
者と思われるように
なつたのはかわいそ
うだと思つた。